

文化・芸術



「山並と空」

制作年不詳、油彩・カンバス
66・7センチ×102・2センチ

アーサー・B・デイヴィス

(1862～1928年)

大川美術館コレクションから

〈名画の扉〉

第一次大戦後の米国美術では、退廃的な都市生活や農村部の風景、当時の社会問題から風俗に至る米国の主題が写実的に描かれ、総称的に「アメリカン・シーン」と呼ばれます。アーサー・B・デイヴィスは1908年にロバート・ヘンライらのグループであるシ・エイトに参加。他の画家とは異なる象徴主義的な作風ながら、都市や風俗などを描きました。デイヴィスは13年に米国で開催された国際近代美術展の運営にも関わりました。この展覧会にはニューヨークの兵器庫で開催された「アーモリー・ショー」と呼ばれる。当初米国の美術を一堂に展示する計画だったものの、デイヴィスの発案で、欧州の作品を加えて国内と国外の二つの部門で構成。米国にヨーロッパ・モタニズムを紹介する機会となりました。当館のアメリカン・シーンの作品は、宇都宮美術館で開催中の「大川美術館コレクション」による20世紀アートセレクション」でご覧いただけます。(大谷)